

◆ 今週のコメント

- 新型コロナウイルス感染症の報告が4例(40歳代男性, 50歳代男性2例及び50歳代女性)ありました。全て感染地域は国内, 感染経路は接触感染です。本年の累積報告数は253例となりました。

○京都市衛生環境研究所にゆーす 令和2年度 第1号(通巻139号)(特集! 新型コロナウイルス感染症!)
<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/cmsfiles/contents/0000175/175313/news2020-01.pdf>

- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症の報告が2例(80歳代及び50歳代男性)(第24週追加報告分含む)ありました。本年の累積報告数は14例となりました。

- 梅毒の報告が1例(50歳代女性)ありました。感染地域は国内, 感染経路は性的接触です。本年の累積報告数は31例となりました。

梅毒の感染経路はほとんどが性的接触です。不特定多数との性的接触を避け, コンドームの使用などの予防策をとってください。重症化及び感染拡大を防ぐためには早期発見, 早期治療が非常に重要です。

○厚生労働省「梅毒に関するQ&A」

http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/seikansenshou/qanda2.html

◆ 今週のトピックス: <腸管出血性大腸菌感染症>

京都市の腸管出血性大腸菌感染症の年間報告数は, 2015年に26例, 2016年29例, 2017年23例, 2018年32例, 2019年43例で, 本年は第24週までで7例となっており, 過去5年と比較すると同時期としては高めの推移となっています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- 二類:結核 5例(肺結核 2例, その他結核 1例, 潜在性結核感染者 2例)うち喀痰塗抹陽性 1例
【1月以降の累積報告数 117例(肺結核 57例, その他結核 23例, 潜在性結核感染者 37例)うち喀痰塗抹陽性 26例】
- 指定感染症:新型コロナウイルス感染症4例【1月以降の累積報告数 253例】
- 五類:カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 2例【1月以降の累積報告数 14例】
- 五類:梅毒 1例【1月以降の累積報告数 31例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点69, 小児科定点43, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.00	0
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	1.72	74
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.49	21
	③ 突発性発しん	0.23	10
	④ 手足口病	0.19	8
	⑤ 流行性耳下腺炎	0.07	3
眼科	流行性角結膜炎	0.10	1

【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 発生状況地図 / 今週のトピックス: <腸管出血性大腸菌感染症>

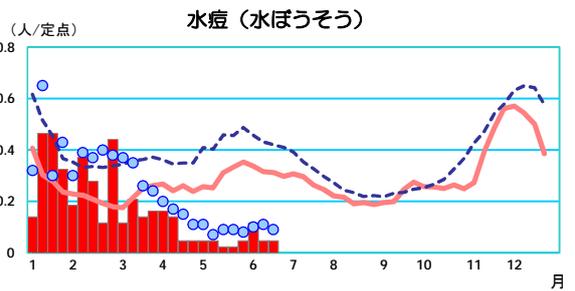
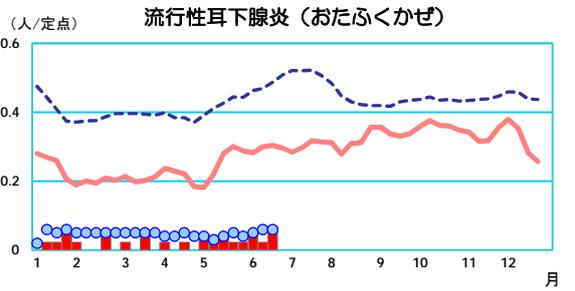
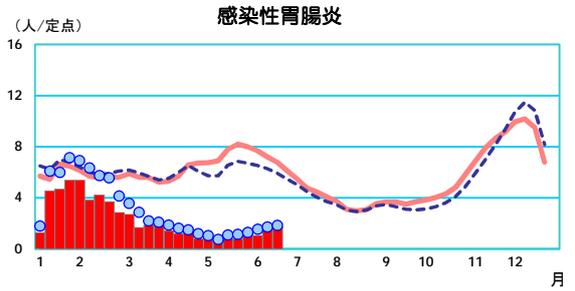
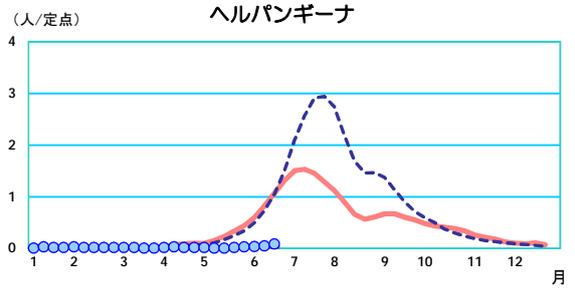
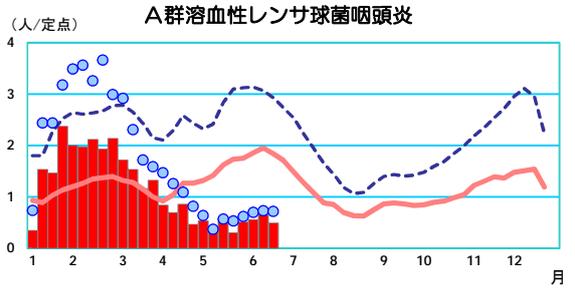
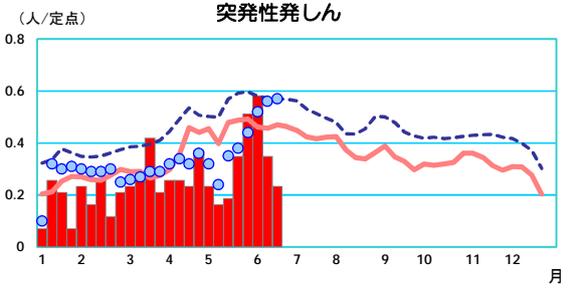
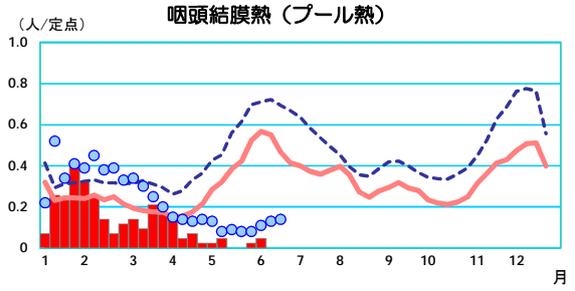
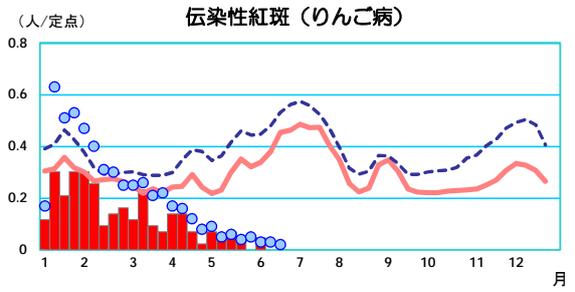
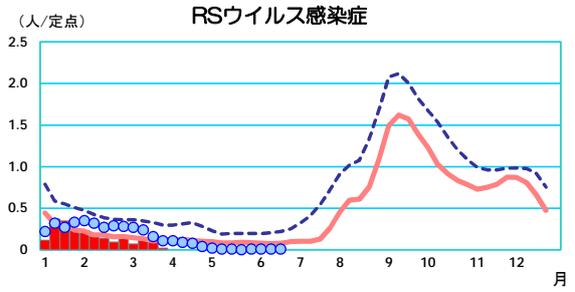
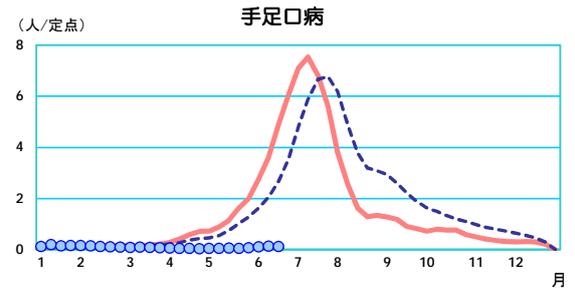
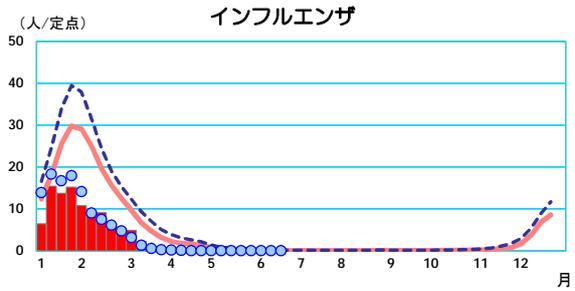
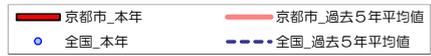
付表(疾病, 行政区別報告数 / 年齢階級, 疾病別報告数 / 週, 疾病別報告数)

(注)京都市のデータは, 2020年6月17日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。

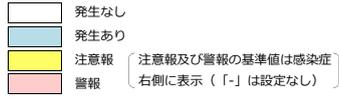
また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。

* 感染地域及び感染経路については推定を含みます。

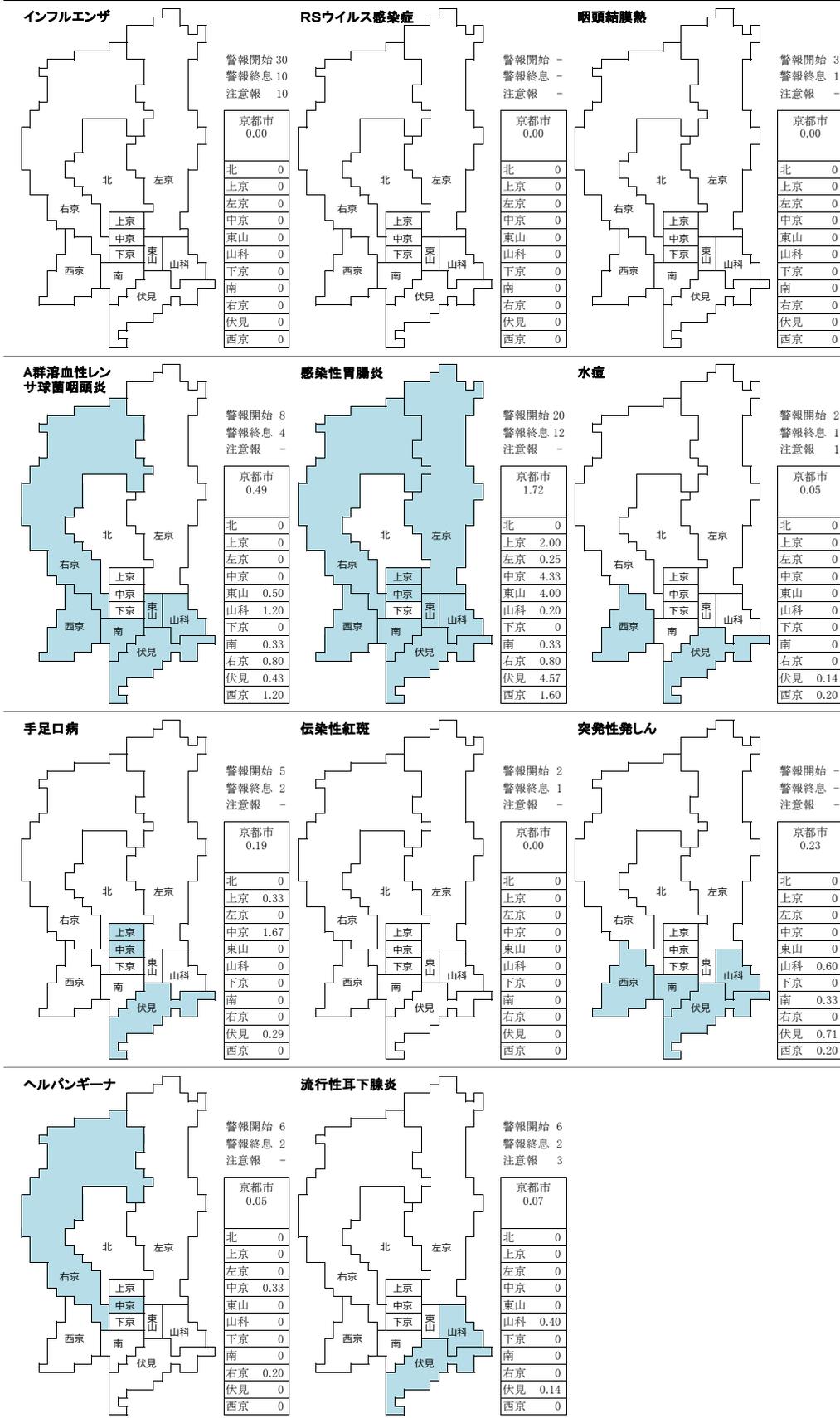
インフルエンザ及び小児感染症の疾病別推移グラフ（2020年）



インフルエンザ及び小児感染症の発生状況地図【2020年 第25週】



※定点医療機関の所在地に基づいた集計結果となっています。
 したがって、定点当たり報告数は医療機関の「立地条件」や「規模の大小の影響を受ける場合がありますので、ご注意ください。」



第25週(6月15日～6月21日)トピックス: <腸管出血性大腸菌感染症>

京都市の腸管出血性大腸菌感染症の年間報告数は、2015年に26例、2016年29例、2017年23例、2018年32例、2019年43例となっており、2017年はやや少なかったものの、2015年から2019年にかけて増加傾向にあると言えます。本年は第24週までで7例となっており、過去5年と比較すると同時期としては高めの推移となっています(図1)。

例年、6月中旬から9月にかけての夏季に、グラフの傾きが大きくなっていることから、この時期に多く発生していることがわかります。本年も比較的高い推移にあることに加え、流行期に入ったことから、注意が必要です(図1)。

検査で判明した菌に関するO血清型及び有症者割合の状況を過去10年間さかのぼって見ると、O血清型では、年による違いはあるものの、どの年もO157が最も多くなっており、合計するとO157が70.8%、次いでO26が8.6%、O103が6.5%となっています(図2)。

腸管出血性大腸菌感染症では、下痢や腹痛などのなんらかの症状がある有症患者症例と、患者発生時に同じ食事をした方や家族などを検査する積極的疫学調査や調理従事者の定期検便などで発見される無症状病原体保有者が報告されます。これらの有症者と無症状者の内訳を見ると、届出数に対する有症者の割合は、少ない年で46.5%、多い年で85.3%となっています。京都市の報告だけでは報告数が限られることから、ばらつきが大きくなっていますが平均では70.1%となっています。全国の有症者割合は63～68%となっており、期間全体としては京都市はほぼ同じかやや多くなっています(図3)。

この感染症は、菌で汚染された食べ物が口から入ることが主な感染経路(食中毒)ですが、患者の便などに由来する菌が、複数の人の手に触れるドアノブやタオルなどに付着し、それが間接的に口に入る感染経路(二次感染)もあります。

食中毒の予防策は、菌を「付けない」、「増やさない」、「やっつける」が基本です。原因となる食材は肉に限らず、生鮮野菜やそう菜の場合もあります。肉類については生食を避けて十分加熱すること、生野菜やそう菜については洗浄や温度管理に注意して菌の増殖を抑えることに気を付けましょう。人から人への感染を防ぐためにも、トイレの後や食べ物を触る前には石けんでしっかりと手を洗いましょう。

図1 京都市の腸管出血性大腸菌感染症報告数(2015年～2020年第24週)

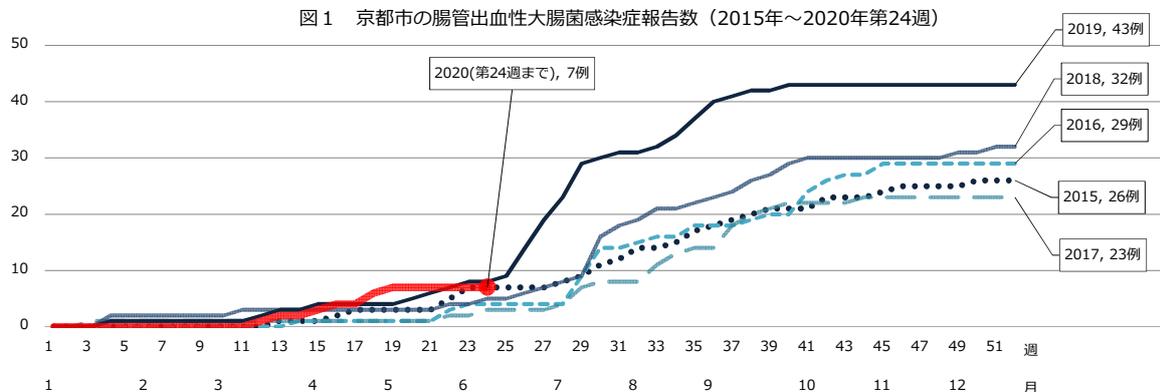


図2 京都市の腸管出血性大腸菌O血清型検出割合

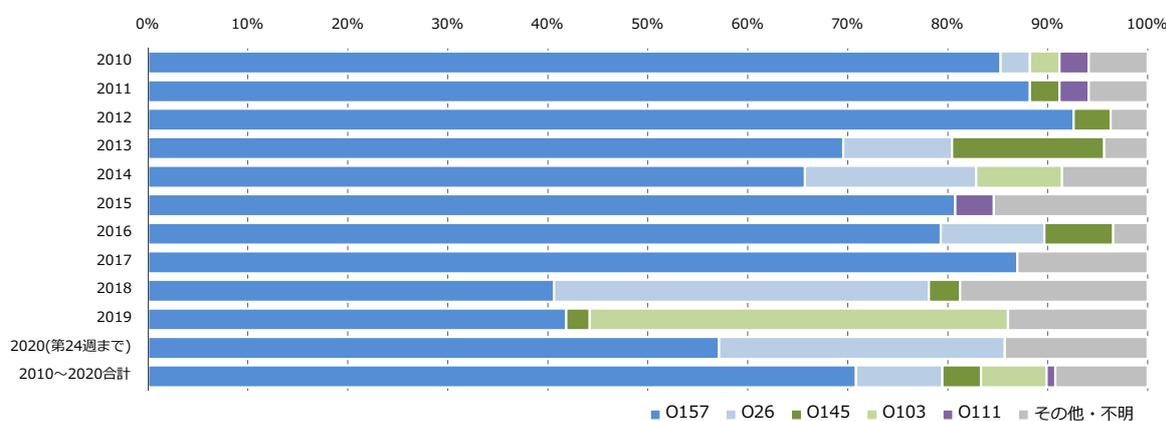
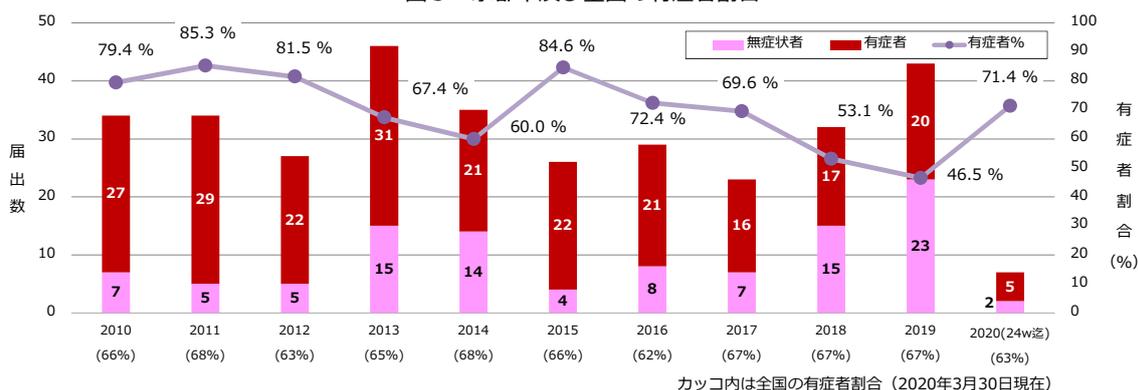


図3 京都市及び全国の有症者割合



T3201

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2020年第25週

疾病,行政区別報告数

2020年6月15日～2020年6月21日

データ入手日:2020年6月24日

	インフルエンザ(※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎(※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎(※3)	感染性胃腸炎(※4)
男女合計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
北	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上京	-	-	-	-	6	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
左京	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
中京	-	-	-	-	13	-	5	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	-	-	1	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山科	-	-	-	6	1	-	-	-	3	-	2	-	-	-	-	-	-	-
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南	-	-	-	1	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
右京	-	-	-	4	4	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-
伏見	-	-	-	3	32	1	2	-	5	-	1	-	-	-	-	-	-	-
西京	-	-	-	6	8	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都市計	-	-	-	21	74	2	8	-	10	2	3	-	1	-	-	-	-	-

疾病,行政区別定点当たり報告数

	インフルエンザ(※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎(※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎(※3)	感染性胃腸炎(※4)
男女合計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
北	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上京	-	-	-	-	2.00	-	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
左京	-	-	-	-	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
中京	-	-	-	-	4.33	-	1.67	-	-	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	-	-	0.50	4.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山科	-	-	-	1.20	0.20	-	-	-	0.60	-	0.40	-	-	-	-	-	-	-
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南	-	-	-	0.33	0.33	-	-	-	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-	-
右京	-	-	-	0.80	0.80	-	-	-	-	0.20	-	-	1.00	-	-	-	-	-
伏見	-	-	-	0.43	4.57	0.14	0.29	-	0.71	-	0.14	-	-	-	-	-	-	-
西京	-	-	-	1.20	1.60	0.20	-	-	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都市計	-	-	-	0.49	1.72	0.05	0.19	-	0.23	0.05	0.07	-	0.10	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3202

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2020年第25週

年齢階級, 疾病別報告数

2020年6月15日～2020年6月21日

データ入手日:2020年6月24日

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上	
	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上		
男女合計	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上							
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上					
インフルエンザ (※1)	年齢1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
RSウイルス感染症	年齢3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		21	-	-	1	2	3	3	1	3	1	1	1	2	-	3							
感染性胃腸炎		74	1	2	12	5	4	4	5	6	3	3	5	15	5	4							
水痘		2	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病		8	-	1	4	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		10	-	3	5	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		2	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		3	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性角結膜炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
細菌性髄膜炎 (※2)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
マイコプラズマ肺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
クラミジア肺炎 (※3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
感染性胃腸炎 (※4)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

年齢階級, 疾病別定点当り報告数

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
男女合計	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上						
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上				
インフルエンザ (※1)	年齢1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	年齢3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.49	-	-	0.02	0.05	0.07	0.07	0.02	0.07	0.02	0.02	0.02	0.05	-	0.07						
感染性胃腸炎		1.72	0.02	0.05	0.28	0.12	0.09	0.09	0.12	0.14	0.07	0.07	0.12	0.35	0.12	0.09						
水痘		0.05	0.02	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病		0.19	-	0.02	0.09	0.02	0.05	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		0.23	-	0.07	0.12	0.05	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		0.05	-	-	-	0.05	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		0.07	-	-	-	-	-	0.02	-	0.02	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性角結膜炎	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.10	-	-	-	
細菌性髄膜炎 (※2)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
マイコプラズマ肺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
クラミジア肺炎 (※3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
感染性胃腸炎 (※4)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3203

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2020年第25週

週, 疾病別報告数

データ入手日:2020年6月24日

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)	-	-	1	-	-	-
RSウイルス感染症	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	-	-	1	2	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	25	13	22	24	28	21
感染性胃腸炎	34	33	46	45	65	74
水痘	1	1	2	5	2	2
手足口病	2	5	5	6	8	8
伝染性紅斑	3	2	-	2	-	-
突発性発しん	8	15	22	25	15	10
ヘルパンギーナ	-	1	1	4	2	2
流行性耳下腺炎	2	1	1	2	1	3
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	1	1	3	-	2	1
細菌性髄膜炎 (※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)	-	-	-	-	-	-
合計	76	72	104	115	123	121

週, 疾病別定点当たり報告数

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)	-	-	0.01	-	-	-
RSウイルス感染症	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	-	-	0.02	0.05	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.58	0.30	0.51	0.56	0.65	0.49
感染性胃腸炎	0.79	0.77	1.07	1.05	1.51	1.72
水痘	0.02	0.02	0.05	0.12	0.05	0.05
手足口病	0.05	0.12	0.12	0.14	0.19	0.19
伝染性紅斑	0.07	0.05	-	0.05	-	-
突発性発しん	0.19	0.35	0.51	0.58	0.35	0.23
ヘルパンギーナ	-	0.02	0.02	0.09	0.05	0.05
流行性耳下腺炎	0.05	0.02	0.02	0.05	0.02	0.07
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	0.10	0.10	0.30	-	0.20	0.10
細菌性髄膜炎 (※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)	-	-	-	-	-	-
合計	1.84	1.75	2.64	2.67	3.01	2.89

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。